

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」

質問項目

- ・ 全般的な知的発達の遅れがないか
(0：ない、1：ある)
- ・ 国語、算数で基礎的能力に著しい遅れがあるか(著しいとは、小学3年生以下の場合、1学年以上。4年生以上の場合、2学年以上の遅れをいう)
(0：ない、1：国、2：算、3：国算)【小学校】
- ・ 国語、数学又は英語の中で基礎的能力に著しい遅れがあるか(著しいとは、小学3年以下の場合、1学年以上。4年生以上の場合、2学年以上の遅れをいう)
(0：ない、1：国、2：数、3：英、4：国数、5：国英、6：数英、7：国数英)【中学校・高等学校】

I. 児童生徒の困難の状況

<学習面「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」>※1

(0：ない、1：まれにある、2：ときどきある、3：よくある、の4段階で回答)

- ・ 聞き間違いがある(「知った」を「行った」と聞き違える)【共通】
- ・ 聞きもらしがある【共通】
- ・ 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい【共通】
- ・ 指示の理解が難しい【共通】
- ・ 話し合いが難しい(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)【共通】

- ・ 適切な速さで話すことが難しい(たどたどしく話す。とても早口である)【共通】
- ・ ことばにつまったりする【共通】
- ・ 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする【共通】
- ・ 思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい【共通】
- ・ 内容をわかりやすく伝えることが難しい【共通】

- ・ 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える【共通】
- ・ 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする【小学校】
- ・ 文章を理解するのに何度も読み返す【中学校・高等学校】
- ・ 音読が遅い【共通】
- ・ 勝手読みがある(「いきました」を「いました」と読む)【小学校】
- ・ 文章を読むことはできるが、内容が頭に入らない【中学校・高等学校】
- ・ 文章の要点を正しく読みとることが難しい【共通】

- ・ 読みにくい字を書く(字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)【共通】
- ・ 独特の筆順で書く【小学校】

- ・ 文章を書く際、漢字をあまり使わない【中学校・高等学校】
 - ・ 漢字の細かい部分を書き間違える【共通】
 - ・ 句読点が抜けたり、正しく打つことができない【小学校】
 - ・ 文法的な誤りが目立つ（主語と述語が対応していない、順序がおかしいなど）【中学校・高等学校】
 - ・ 限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない【共通】
 - ・ 思いつくままに書き、筋道の通った文章を書くことができない【中学校・高等学校】
-
- ・ 学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい（三千四十七を300047や347と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている）【小学校】
 - ・ 数の表記が正確にできない（三千四十七を300047や347と書くなど）【中学校・高等学校】
 - ・ 簡単な計算が暗算でできない【小学校】
 - ・ 簡単な数（ $6+8=14$ 、 $15-7=8$ など、九九の範囲の計算）の暗算が素早くできない【中学校・高等学校】
 - ・ 計算をするのにとっても時間がかかる【小学校】
 - ・ 四則の混合した式などを正しい順序で計算できない【中学校・高等学校】
 - ・ 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい（四則混合の計算。2つの立式を必要とする計算）【小学校】
 - ・ 文字や記号（ x 、 y 、 π など）を使った計算ができない【中学校・高等学校】
 - ・ 学年相応の文章題を解くのが難しい【小学校】
 - ・ 一次方程式が解けない【中学校・高等学校】
-
- ・ 学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい（長さやかさの比較。「15 cmは150 mm」ということ）【小学校】
 - ・ 数の量的な面が理解できない（数直線の目盛りが分からない、分数の大きさが分からないなど）【中学校・高等学校】
 - ・ 学年相応の図形を描くことが難しい（丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図）【小学校】
 - ・ 幾つかの事象から数学的な法則が見つけられない（数字の並び、表やグラフの変化から先を予測できないなど）【中学校・高等学校】
 - ・ 事物の因果関係を理解することが難しい【小学校】
 - ・ 文章題の解き方の方針（求め方）や立式が分からない【中学校・高等学校】
 - ・ 目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい【小学校】
 - ・ 基本的な公式や定理を示されても、それに当てはめて答えを求めていくことができない【中学校・高等学校】
 - ・ 早合点や、飛躍した考えをする【小学校】
 - ・ 類似点・相違点を見つけられない（図形の性質や問題の解き方などの似ているところ、違うところが分からないなど）【中学校・高等学校】
 - ・ 得られた答えが、日常ではあり得ない状況でも、変だと思わない【中学校・高等学校】

<行動面（「不注意」「多動性 - 衝動性」）>※²

（0：ない、もしくはほとんどない、1：ときどきある、2：しばしばある、3：非常にしばしばある、の4段階で回答）

- ・ 学業において、綿密に注意することができない、または不注意な間違いをする
- ・ 手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする
- ・ 課題または遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい
- ・ 教室や、その他、座っていることを要求される状況で席を離れる
- ・ 直接話しかけられたときに聞いてないように見える
- ・ 不適切な状況で、余計に走り回ったり高い所へ上ったりする
- ・ 指示に従えず、課題や任務をやり遂げることができない
- ・ 静かに遊んだり余暇活動につくことができない
- ・ 課題や活動を順序だてることが難しい
- ・ 「じっとしていない」、またはまるで「エンジンで動かされているように」行動する
- ・ （学業や宿題のような）精神的努力の持続を要する課題を避ける
- ・ しゃべりすぎる
- ・ 課題や活動に必要なものをなくしてしまう
- ・ 質問が終わる前に出し抜けに答え始めてしまう
- ・ 気が散りやすい
- ・ 順番を待つことが難しい
- ・ 日々の活動で忘れっぽい
- ・ 他人を妨害したり、邪魔をする

<行動面（「対人関係やこだわり等」）>

（同じ学年の児童生徒と比べて、特に目立つかどうかで考え、0：いいえ、1：多少、2：はい、の3段階で回答）

- ・ 大人びている。ませている
- ・ みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている（例：カレンダー博士）
- ・ 他の子供は興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている
- ・ 特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない
- ・ 含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある
- ・ 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある
- ・ 言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような造語を作る
- ・ 独特な声で話すことがある
- ・ 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す（例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ）
- ・ とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある
- ・ いろいろな事を話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない
- ・ 共感性が乏しい

- ・ 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うってしまう
- ・ 独特な目つきをすることがある
- ・ 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない
- ・ 友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる
- ・ 仲の良い友人がいない
- ・ 常識が乏しい
- ・ 球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない
- ・ 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある
- ・ 意図的でなく、顔や体を動かすことがある
- ・ ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある
- ・ 自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる
- ・ 特定の物に執着がある
- ・ 他の子供たちから、いじめられることがある
- ・ 独特な表情をしていることがある
- ・ 独特な姿勢をしていることがある

※1 <学習面「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」>の質問項目については、「LDI-R-LD診断のための調査票-」（日本文化科学社）を参考に作成。

※2 <行動面（「不注意」「多動性-衝動性」）>の質問項目については、株式会社明石書店の著作物である「ADHD評価スケール」を使用。よって、同社に無断で転載、複製、翻案、頒布、公衆送信を行うことはできない。

※3 <行動面（「対人関係やこだわり等」）>の質問項目については、スウェーデンの研究者によって作成された、高機能自閉症に関するスクリーニング質問紙（ASSQ）を参考に作成。

II 児童生徒の受けている支援の状況

- ・ 当該児童（生徒）の在籍する学級の在籍者数は何人か
- ・ 校内委員会において、現在、特別な教育的支援が必要と判断されているか
（0：必要と判断されている、1：必要と判断されていない）
- ・ 現在、通級による指導を受けているか
（0：受けていない、1：受けている、2：現在は受けていないが過去に受けていた）
- ・ 過去に特別支援学級に在籍していたことがあるか
（0：在籍していたことがある、1：在籍していたことはない）
- ・ 「個別の教育支援計画」を作成しているか
（0：作成している、1：作成していない、2：現在は無いが過去に作成していた）
- ・ 「個別の指導計画」を作成しているか
（0：作成している、1：作成していない、2：現在は無いが過去に作成していた）
- ・ 特別支援教育支援員の支援の対象となっているか（支援員一人が複数の児童生徒を支援している場合も含む）
（0：なっている、1：なっていない、2：現在はなっていないが過去にっていた）
- ・ 授業時間以外の個別の配慮・支援を行っているか（補習授業の実施、宿題の工夫等）
（0：行っている、1：行っていない、2：現在は行っていないが過去行っていた）

- ・ 授業時間内に教室以外の場で個別の配慮・支援を行っているか（通級による指導を除く）（個別指導等）
（0：行っている、1：行っていない、2：現在は行っていないが過去行っていた）
- ・ 授業時間内に教室内で個別の配慮・支援を行っているか（特別支援教育支援員による支援を除く）
（座席位置の配慮、コミュニケーション上の配慮、習熟度別学習における配慮、個別の課題の工夫等）
（0：行っている、1：行っていない、2：現在は行っていないが過去行っていた）
- ・ 専門家（特別支援学校、巡回相談員、福祉・保健等の関係機関、医師、スクールカウンセラー（SC）、作業療法士（OT）など）に学校として、意見を聞いているか
（0：定期的に聞いている、1：聞いている、2：過去に聞いたことがある）